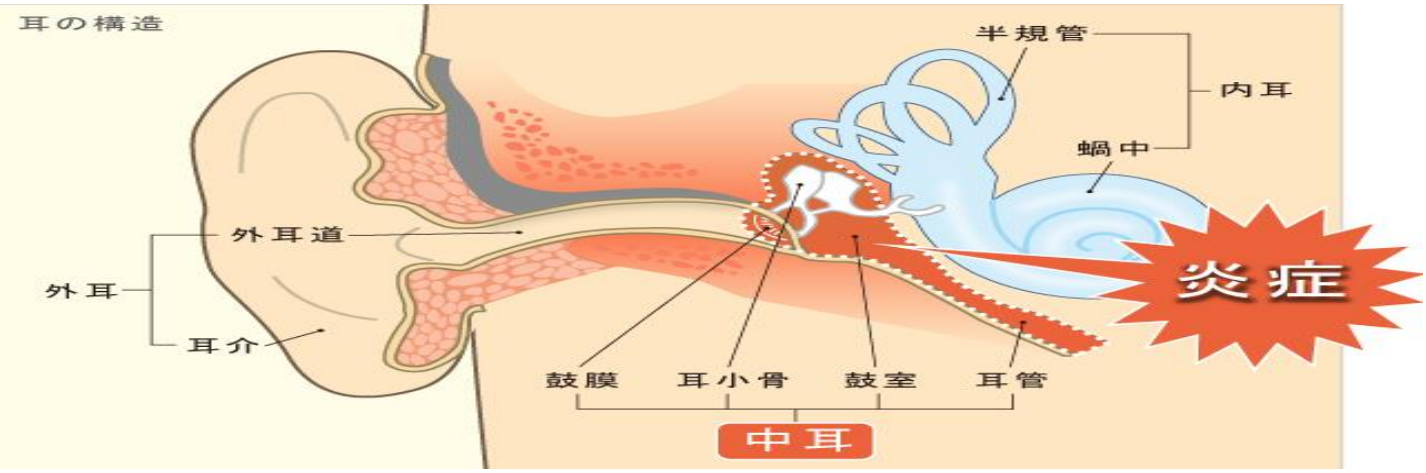
安井鍼灸整骨院 NEWS VOL. １１５（４月）

こんにちは。安井鍼灸整骨院です。今回は、中耳炎についてです。

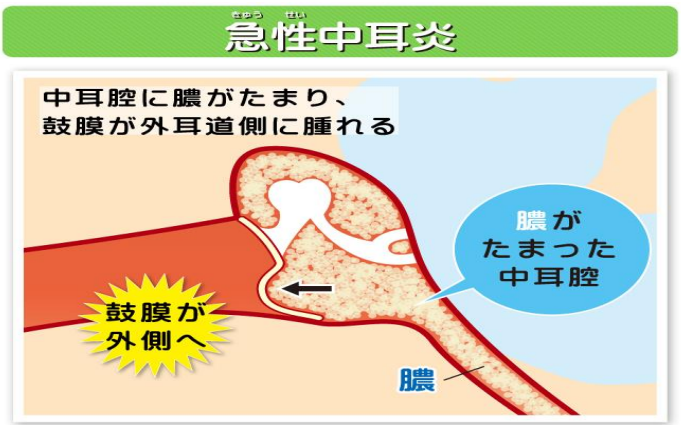
中耳炎とは

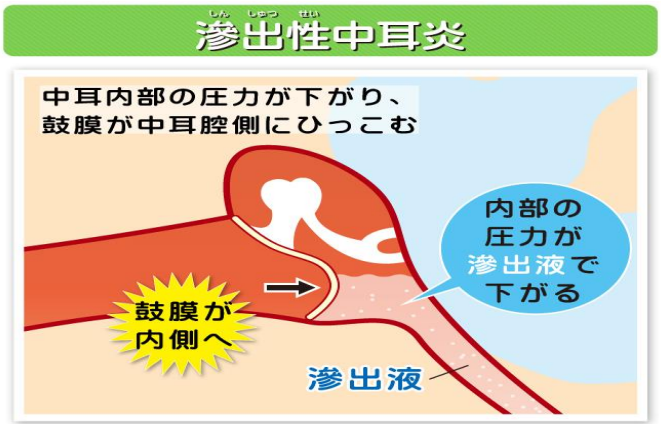
耳は外側から、外耳（がいじ）、中耳（ちゅうじ）、内耳（ないじ）と３つの区画にわかれています。中耳炎とは、まさに中耳の部分が菌などの侵入で炎症を起こしている状態です。中耳炎になると、耳を痛がったり、耳垂れ（耳から膿などが出てくること）がおきたり、機嫌が悪かったりします。中耳炎は、生後半年から１歳、２歳ぐらいをピークとして、5 歳ぐらいまでは非常に多い病気です。これは、大人に比べて抵抗力が弱いためで、5 歳を過ぎると抵抗力もつき、中耳炎になる事も減ってきます。



中耳炎の種類（急性中耳炎と滲出性中耳炎）

中耳炎には２種類あり、急性中耳炎と滲出性中耳炎とがあります。急性中耳炎は、風邪や感染症が原因でなることが多く、割りと短期間で治ることも多いですが、一方耳が痛い、発熱、耳垂れなどの症状のない、「滲出性中耳炎（しんしゅつせいちゅうじえん）」は、なかなか気づきにくく、治りにくい中耳炎です。





中耳炎の症状

急性中耳炎の場合

耳の異常・違和感はもちろんですが、発熱を伴う場合もあります。

他　耳に手をあてる　耳のつまり感　難聴　など
赤ちゃんの場合は、以下のように症状を表現していることがあります。
急に泣き出す　むずがる　耳によくさわる

滲出性中耳炎の場合

滲出性中耳炎は、急性中耳炎のように、耳が痛い、発熱、耳垂れ、などの症状が無く、なかなか気づきにくいです。

耳によく手を持っていく、さわる　呼んでも振り向かない、返事をしない
テレビの音を大きくする、近寄ってみるようになったなどの症状が起こります。

気づきにくく、治りにくい滲出性中耳炎

上で見ていただいたように、滲出性中耳炎は症状に気づきにくく、また治りにくい中耳炎でもあります。急性中耳炎を放っておいて滲出性中耳炎に移行してしまうこともありますので、単に風邪だから、と思わず耳鼻科での診察も受けて頂くことがお薦めです。

言葉の発達や学習力の低下にも影響が

滲出性中耳炎の難聴は比較的軽いものですが、何度も急性中耳炎を繰り返し難治化したり、言葉の発達が遅れたり、学童では学習力の低下につながることもあります。鼓膜においては、張りが失われたことによる凹みがさらに強くなり、奥にある壁に癒着し（癒着性中耳炎）、続いて鼓膜に永久的な穴があき（慢性中耳炎）おとなになっても難聴や耳垂れで悩んだり、手術が必要だったりすることもあります。

中耳炎の治療

鼻水の処置

鼻水がたまったり喉に炎症があると、中耳炎が悪くなったり、長引いたりします。まずは鼻水を貯めないのが一番です。

耳管通気療法

鼓膜に空気を送り込み、鼓膜の張りを元にもどすような処置を行います。この処置を行えない幼小児の場合には鼓膜マッサージ療法を行っております。

予防

中耳炎の多くは風邪をきっかけに生じますので、日頃から風邪にかからないよう感染症予防を慣行することが大切です。また、万一風邪にかかった場合には、中耳に細菌が到達してしまう前に早めに風邪を治すことを心がけましょう。鼓膜に穴がある人は将来的に中耳炎を予防するため閉鎖する手術も必要です。このほか、副鼻腔炎など鼻の病気などにかかっている人の場合中耳炎にかかりやすいため、病院を受診し適切な治療を受けるように気を付けることが大切です。

安井鍼灸整骨院　０７８－９９５－９４６１　新患の方は、来院前に予約の御協力をお願いします。
9：00～12：00　16：00～21：00(月～金)　８：３０～13：00　16：00～20：00(土)
駐車場正面に２台　キッズスペースあり　夜２０：３０まで受付　詳しくはHPをご覧ください。
兵庫県明石市大久保町大窪１９２１番地の１クレージュ山手１０１号(カラオケまねきねこ横)